

# 中部国際空港の二本目滑走路を始めとする 機能強化の早期実現に関する要望書



2019年11月

愛 知 県  
名 古 屋 市  
名古屋商工会議所  
一般社団法人中部経済連合会  
中部国際空港株式会社

## 中部国際空港の二本目滑走路を始めとする機能強化の早期実現について

中部国際空港は、2005年の開港から15年目を迎え、国際拠点空港として、我が国の航空輸送発展の一翼を担い、モノづくりを中心に我が国の経済をけん引する中部地域の重要な社会インフラとして、国内外のヒト・モノの交流に大きく貢献してまいりました。

航空需要の拡大、航空ネットワークの充実に向けたエアポートセールスや昇龍道プロジェクトの推進など、地域一丸となって取組を進め、昨年度は航空旅客数が過去最高を更新する1,236万人、発着回数が10.3万回と堅調に推移しました。

本年度は、国際旅客便の就航便数が夏ダイヤピーク時に過去最高の週465便を記録し、上期の航空旅客数は699万人、発着回数は5.9万回となり、ともに過去最高を更新する勢いで推移しております。新規就航が相次ぐ中、9月にはLCCのビジネスモデルに沿った新ターミナルビル「第2ターミナル」の供用が開始され、航空ネットワークのさらなる拡充が期待されます。

加えて、空港島内では、昨年10月に複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」、本年8月に延床面積約9万㎡を有する愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」が開業し、国際交流拠点としての機能も一層充実してまいります。

さらに、この地域では、本年11月に開催されるG20愛知・名古屋外務大臣会合を始め、来年度以降も、2020年のワールドロボットサミット、2026年の第20回アジア競技大会など、国際的な行事が数多く開催される予定であり、中部国際空港の果たすべき役割がより一層重要になってまいります。

こうした中、近い将来、中部国際空港の年間発着回数は約15万回に到達すると想定しており、滑走路が一本である状況下では、深夜早朝時間帯に実施している滑走路等のメンテナンス時間の確保も困難となる等、空港運用上の支障が生じてまいります。

加えて、供用開始から14年が経過したことにより、大規模改修への対応も近い将来必ず直面する課題であり、ピーク時間帯を含め、航空便の受け入れ制約が現実味を帯びてきました。

昨年9月の台風第21号による関西国際空港の被災時において、中部国際空港は、振替便を受け入れるなど、重要な役割を果たしました。国際拠点空港間の機能強化、相互の連携が極めて重要であることが改めて認識されたところでもあります。この地域は首都圏と関西圏の中間に位置し、また、鉄道・道路・港湾など、広域的な交通、物流ネットワークの結節点であることから、中部国際空港が名古屋港とともに、社会インフラとしてリダンダンシー機能を併せ持つことは、国土強靱化の観点からも大変重要であります。

2027年度のリニア中央新幹線の開業に伴うインパクトを生かし、また、その後の全線開業に伴うスーパー・メガリージョン形成を見据え、我が国の成長エンジンの一翼として、社会・経済活動のグローバルな交流を支える国際拠点空港としての役割を十

分に発揮していくためにも、複数滑走路は必要不可欠であります。

こうした中、名古屋港で発生する浚渫土砂の処分場が国土交通省により計画され、現在、環境影響評価書の手続きが進められているところです。

地域としては、引き続き需要拡大に向け、地元自治体、経済界、空港会社などが一致団結し、関係者との連携により、利用促進を強力に進めてまいりますので、国におかれましても、中部国際空港の二本目滑走路を始めとする機能強化の早期実現に向けて、次の各項目について格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

- 1 地域と連携して二本目滑走路を始めとする機能強化に向けた検討を行うとともに、必要な措置を講じること。**
- 2 地域の観光資源を活用したプロモーション事業等インバウンド旅客の増加に向けた施策を始めとする航空需要拡大の取組を一層推進すること。**
- 3 急増する訪日外国人への対応、及び、テロ対策強化のため、先進的な保安検査機器の導入を進めるとともに、C I Q体制の充実・強化に取り組むこと。**
- 4 空港利用者の利便性向上、及び、さらなる増加が見込まれるF I T（個人の外国人旅行者）にしっかり対応するため、引き続き、東海三県始め中部地域の主要都市、観光地から空港への道路・鉄道等のアクセスの充実に取り組むこと。**

2019年11月

愛知県知事	大村 秀章
名古屋市長	河村 たかし
名古屋商工会議所会頭	山本 亜土
一般社団法人中部経済連合会会長	豊田 鐵郎
中部国際空港株式会社代表取締役社長	犬塚 力

## 参考 中部国際空港島で進む整備等

- ボーイング 787 初号機の展示をメインとする複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」を整備
- 自動運転実証実験の実施や水素ステーションの導入
- 日本初の国際空港隣接型となる延床面積約9万㎡の国際展示場「Aichi Sky Expo」を整備
- さらなる航空需要の増加を見据えて、LCC 向け新ターミナルビル「第2ターミナル」を整備



複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」  
2018年10月12日開業



自動運転実証実験  
2019年8月・9月



水素ステーション開所式  
2019年3月19日



愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」  
2019年8月30日開業



LCC 向け新ターミナルビル「第2ターミナル」  
2019年9月20日開業